

令和5年度 学校評価の結果と状況分析

1 アンケートの回収状況

	対象	対象者数	回答数				回答率
			小	中	高	計	
1	教員	36	9/9	9/9	18/18	36/36	100%
2	保護者	43	8/9	10/12	19/22	37/43	86%
3	学校評議員	5	5/5				100%
4	ばんだい荘職員	8	8/8				100%
5	中学部生徒	12	12/12				100%
6	高等部生徒	22	22/22				100%

※保護者は世帯数を表す。令和5年11月1日現在在籍児童生徒保護者を対象として実施

2 評価結果と学校経営・運営ビジョンにおける達成概況

(1) 評価結果

ビジョンの内容	教員	保護者	ば荘	評議員	状況
楽しく登校できる学校	4	3	4	4	○
読書活動で言葉の力が育っている児童生徒	3	3	3	4	○
学部活動の企画・運営に挑戦する態度の育成	4	3	4	4	○
社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、発信できる力	4	4	4	4	◎
学びの姿を学級通信やホームページ、noteで発信	4	3	4	4	○
ICTを活用した効果的な学び	4	4	4	4	◎
公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成	4	4	4	4	◎
関係機関との連携・進路学習や進路情報の充実	4	4	4	4	◎
「自分手帳」の活用と発信、食習慣や運動習慣・生活習慣に関心	4	3	4	4	○
獣害対策・新型コロナウイルス感染症対策の徹底	4	4	2	4	△
生きる力を育む教科指導を大切にした授業づくり	4	3	4	4	○
地域への啓発、地域の方々の理解	4	3	4	4	○
はあとふるタイムや校内外の教育相談の充実	4	4	4	4	◎

※ 教員、保護者の評定は、3学部の評価を合わせた割合として評定をしている。

※ 評定は、以下の基準で行う。

評定	評価基準
4	「A」と「B」を合わせて90%以上で、「C」と「D」を合わせて10%以下の項目がある場合
3	「A」と「B」を合わせて70%以上であるが、「C」と「D」を合わせて30%以下の項目がある場合
2	① 「A」と「B」を合わせて40%以下であり、「C」と「D」を合わせて60%以上の項目がある場合 ② 「C」と「D」のいずれかが40%を越える項目がある場合
1	「C」と「D」を合わせて80%以上の項目がある場合

<ビジョンの達成状況>

「達成している」 → ◎	評価が対象区分において、すべて「4」である場合
「概ね達成している」 → ○	評価が対象区分において、「4」と「3」である場合
「改善を要する」 → △	評価が対象区分において、「2」がある場合
「問題がある」 → ×	評価が対象区分において、「1」がある場合

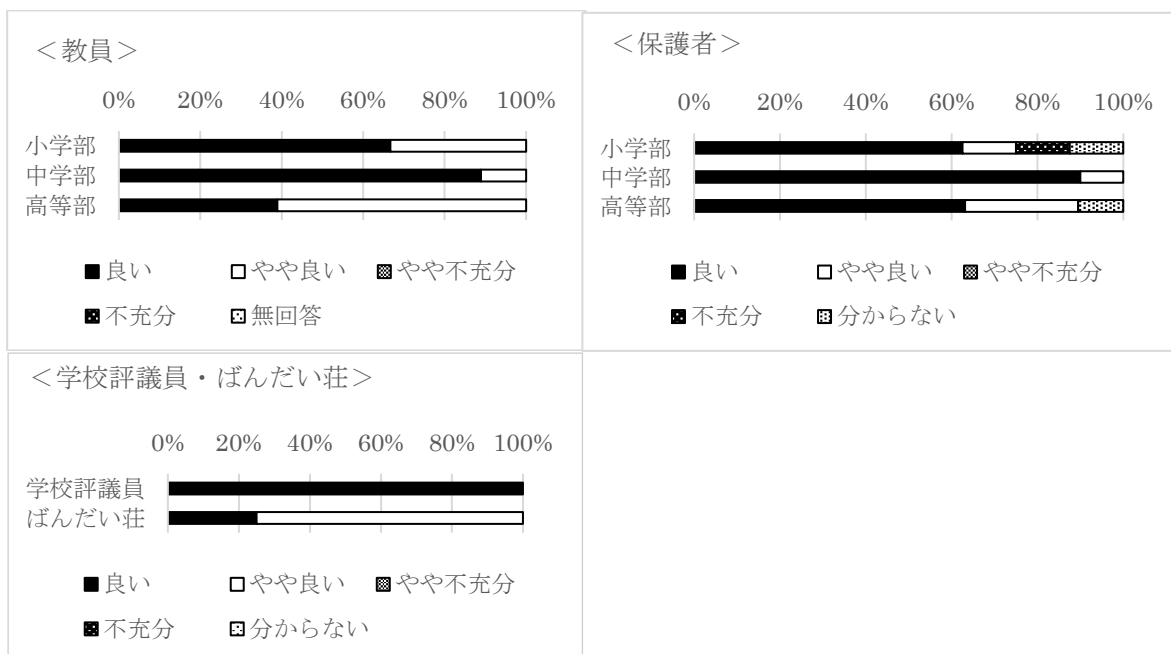
(2) 概況

- ① 1つの評価項目を除いて、教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員ともに概ね評価ポイントが高いことから、**学校経営・運営ビジョンが達成されていると評価された**と言える。
- ② 教員の評価は、1つの評価項目を除いて評価ポイントが高い。評価ポイントが低い項目は、「**読書活動で言葉の力が育っている児童生徒**」で、「**やや不十分**」と評価した教員が8名いた。
- ③ 保護者の評価は、「社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、発信できる児童生徒」「ICTを活用した効果的な学び」「公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成」「関係機関との連携・進路学習や進路情報の充実」「**獣害対策・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底**」「はあとふるタイムや校内外の教育相談の充実」に関する評価ポイントが高く、**学校生活及び学習の取り組みについては概ね満足**を得られている。また、「楽しく登校できる学校」「読書活動で言葉の力が育っている児童生徒」「学部活動の企画・運営に挑戦する態度の育成」「学びの姿を学級通信やホームページ、noteで発信」「『**自分手帳**』の活用と発信、食習慣や運動習慣・生活習慣に関心』『生きる力を育む教科指導を大切に**した授業づくり**』『**地域への啓発、地域の方々の理解**』についても、概ね達成しているとの評価を得られた。
- ④ ばんだい荘職員の評価では、1つの評価項目を除いて概ね高い評価を得ている。本校の教育実践への理解と互いに協力、連携しながら児童生徒の指導、支援に当たっていると実感されていることが推察されるものの、「**獣害対策・新型コロナウイルス感染症対策の徹底**」では「**やや不十分**」と評価した職員が75%（8名中6名）であり、評価が低い。
- ⑤ 学校評議員の評価は、**全ての項目で評価ポイントが高い**。

3 各項目における評価結果と評価者間の比較・分析

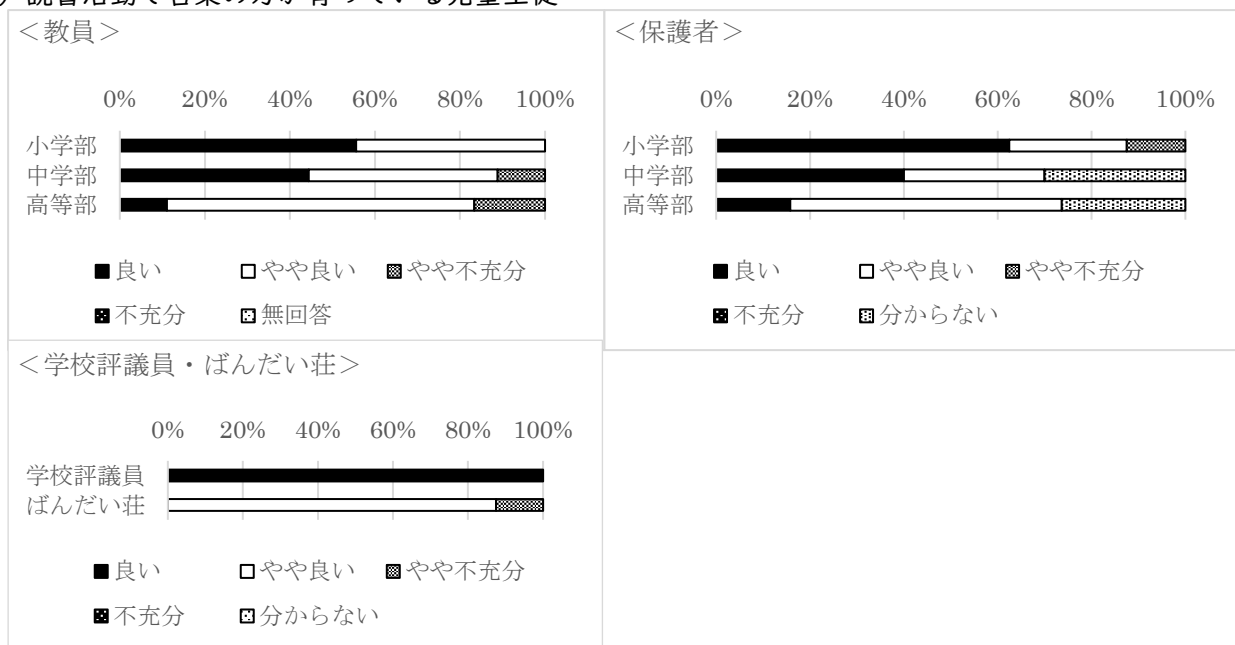
注：各回答間の比較において「多い」、「少ない」の表現で分析を行っているが、実数の比較ではなく傾向の比較として解釈すること。

(1) 楽しく登校できる学校



教員、保護者、学校評議員は、全て「良い」、「やや良い」で評価している。児童生徒が概ね楽しみを感じながら登校していると評価している。しかし、保護者において「不十分」、「分からない」という回答が一部あった。学校評議員においては、「落ち着いて授業を受けている。」、ばんだい荘職員においては「ほぼ皆さん楽しく行かれていて、たまに行き渋りをする子がいるが、先生方が協力的に受け入れてくれる。大変、助かっている。」という意見があった。今後も、安心・安全な学校を目指し、児童生徒が楽しいと感じられる学校、保護者やばんだい荘職員が安心して任せられるような学校を目指していきたい。そのためには、児童生徒との信頼関係づくりの構築、満足感や期待感をもって学ぶことができる教育計画や授業づくりの工夫に努めていきたい。

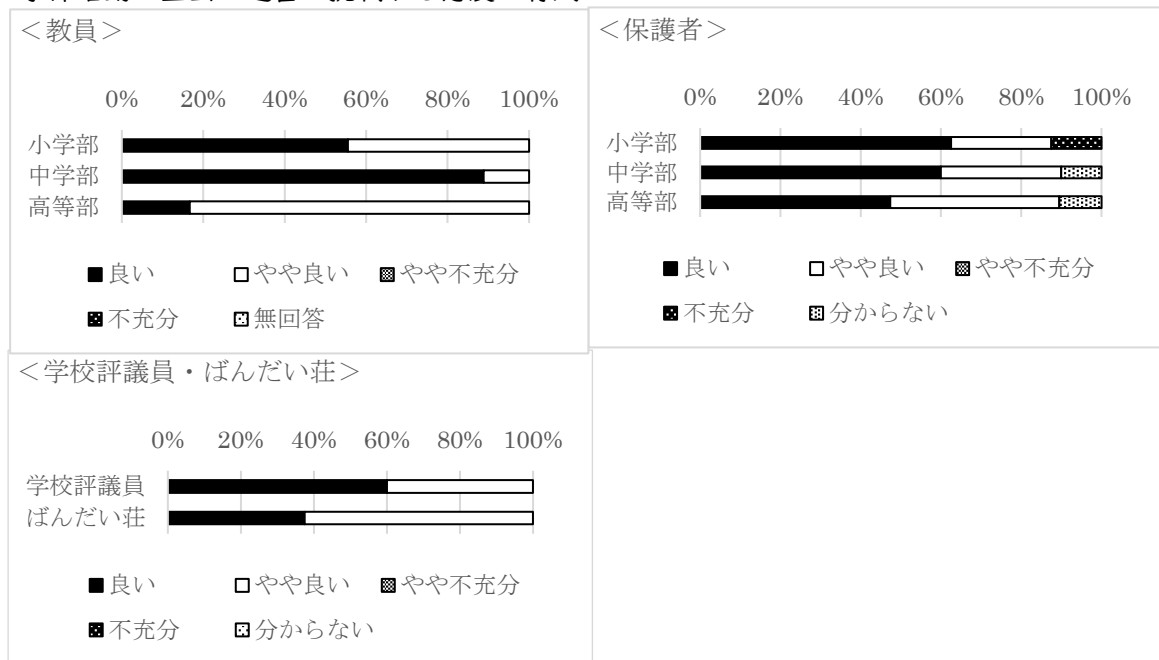
(2) 読書活動で言葉の力が育っている児童生徒



小学部教員、学校評議員ともに、概ね「良い」「やや良い」という評価であった。しかし、保護者、ばんだい荘職員において「やや不十分」「分からない」という回答が一部あった。学校評議員から、自由記述として、「移動図書館から校内にない本への触れ合いがあって良い。」という意見があった一方で、保護者から、「本人は読書をしていないと言っていました。」「本人が読む力がまだつたないのか、それとも周りが読むとつられて読み出すか、分かりません。」、ばんだい荘職員から、「本に興味をもつような姿が見られない。(日常的に)」という意見があった。

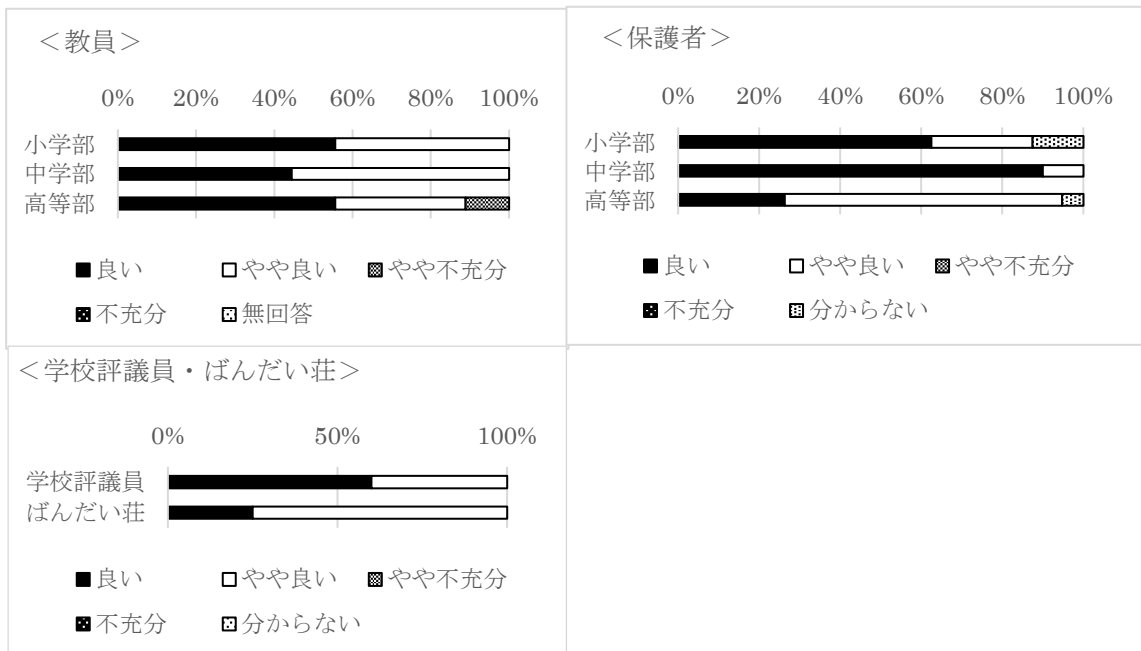
本校には、規模は小さいながらも図書室が備えられており、休み時間にそこで本を読んでいる児童生徒も見受けられる。また、移動図書館を利用したり、校外学習で町の図書館を利用したりしている学部もある。小学部、中学部、高等部と年齢が上がっていくにつれ、「良い」と評価している割合が減っていることが、教員と保護者の評価が一致しているところでもある。小さい段階から本に親しむ機会を設け、中学部、高等部段階においても、本に触れたり親しんだりする機会や時間をつくっていきけるよう意識して取り組んでいきたい。

(3) 学部活動の企画・運営に挑戦する態度の育成



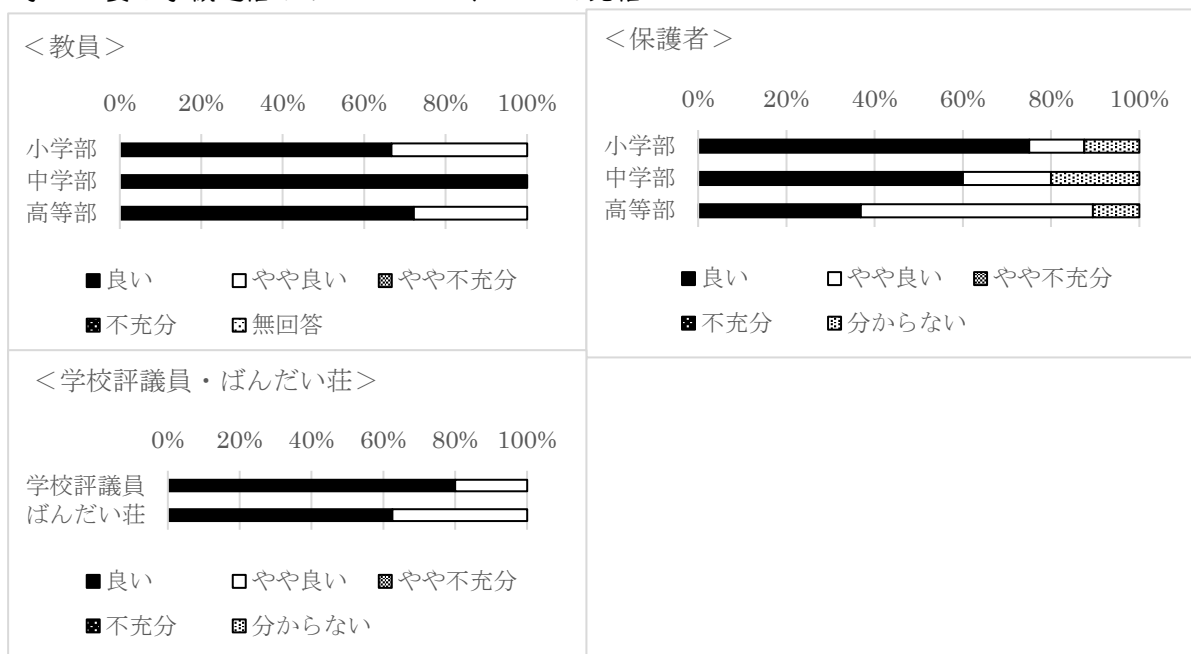
教員、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」「やや良い」という評価であった。保護者には「不十分」「分からない」という意見があった。児童生徒が学部活動の企画・運営に挑戦することは、児童生徒の社会参加と自立を目指す上でも、大変有効だと思われる。自己選択・自己決定を始めとし、小さなことから取り組み、児童生徒自身が自分たちのためによりよい学校づくりを目指していけるよう、今後も継続して指導していく。

(4) 社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、発信できる児童生徒



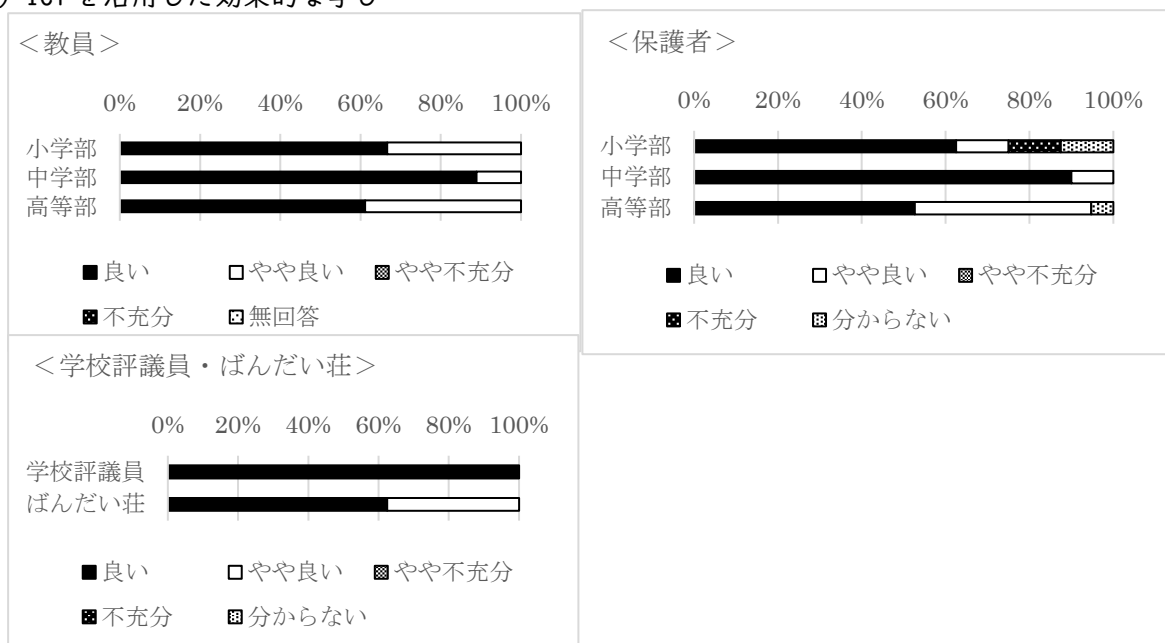
小学部・中学部教員、中学部保護者、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」、「やや良い」で回答しており、全体的に高い評価であるが、高等部教員の中には「やや不十分」、小学部、高等部の保護者の中には「分からない」の回答が見られた。自ら考えて行動できる力が児童生徒に身につけてきていると実感していることが分かる。保護者の「分からない」という回答は、実際にそのような場面を見ることができていないため実感しにくいからではないかと推測する。今後、自ら考えて行動できるような機会を設けたり、そういった場面を見ていただく機会を増やしたりしていく必要があると思われる。

(5) 学びの姿を学級通信やホームページ、note で発信



教員、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」、「やや良い」という評価であった。中学部教員においては、「良い」の割合が100%と非常に高い評価であった。学校ホームページに加え、今年度から新しく導入された福島県教育委員会公式noteにおいても児童生徒の学びの姿を発信したことで、学校の取り組みを広く地域に周知できたと評価できる。その一方で、保護者にはどの学部においても「分からない」といった回答が見られた。「分からない」という回答については、学校ホームページやnoteで学びの様子を発信していることを知らない、または一度も見たことがないという保護者がいると思われる。引き続き学校ホームページやnoteについて発信する機会を増やしていくとともに、お便り等で周知を図り、全保護者に児童生徒の学びの姿を見ていただく必要がある。

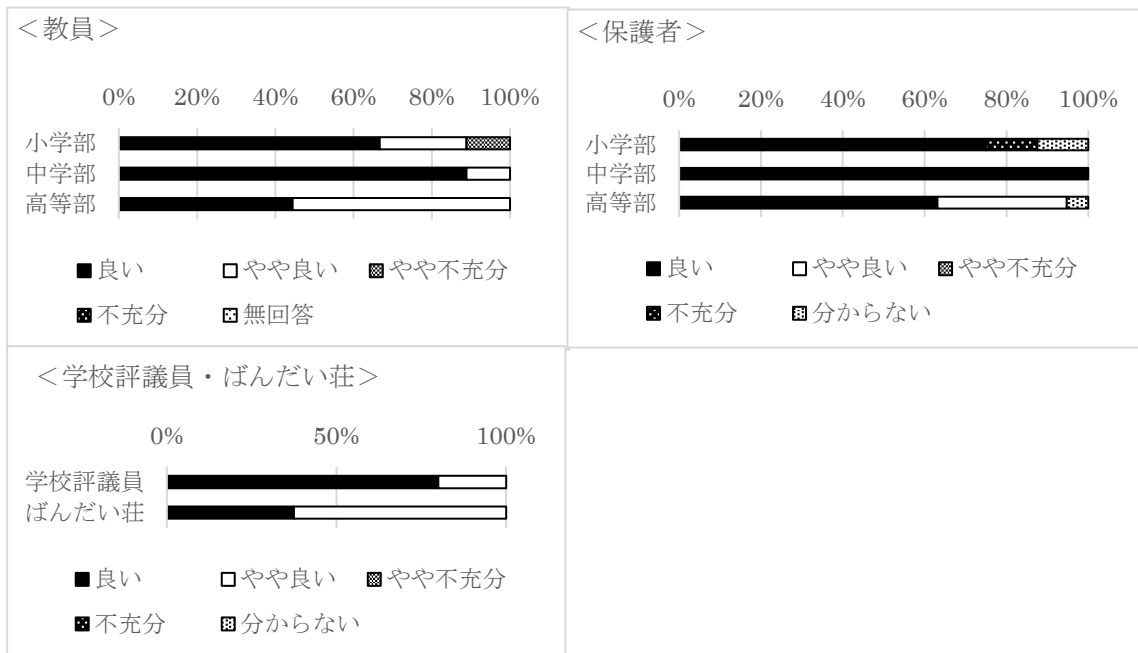
(6) ICT を活用した効果的な学び



教員、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」「やや良い」という評価であった。学校評議員においては、「良い」の割合が100%と非常に高い評価であった。小学部、高等部保護者には「不十分」「分からない」との回答が見られた。保護者からは、「授業で用いているので、効果的に使用されていると思います。」、学校評議員からは、「授業での活用が多く見られる。」という肯定的な意見が出された。一人一台端末が導入されて数年経ち、ICT機器を効果的に授業に

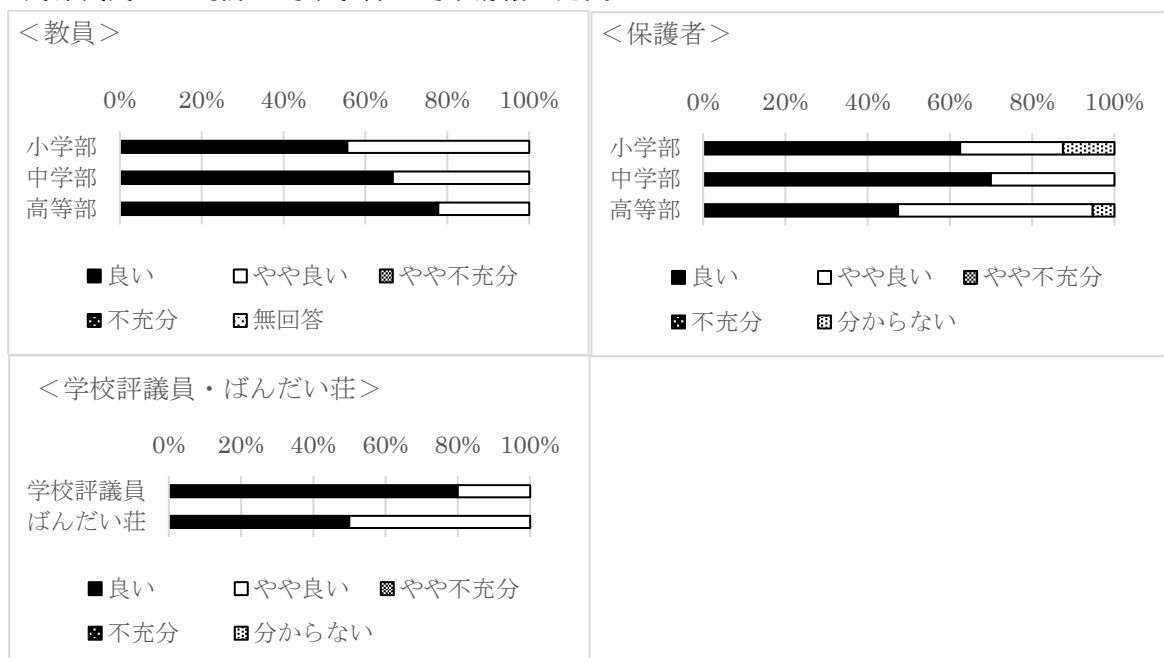
取り入れていこうという教員の意欲は高まっている。児童生徒が身近なツールとして ICT 機器を活用していけるよう、今後も教員の研修を積みながら、情報活用能力の育成や情報モラル育成について、さらに取り組んでいきたい。

(7) 公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成



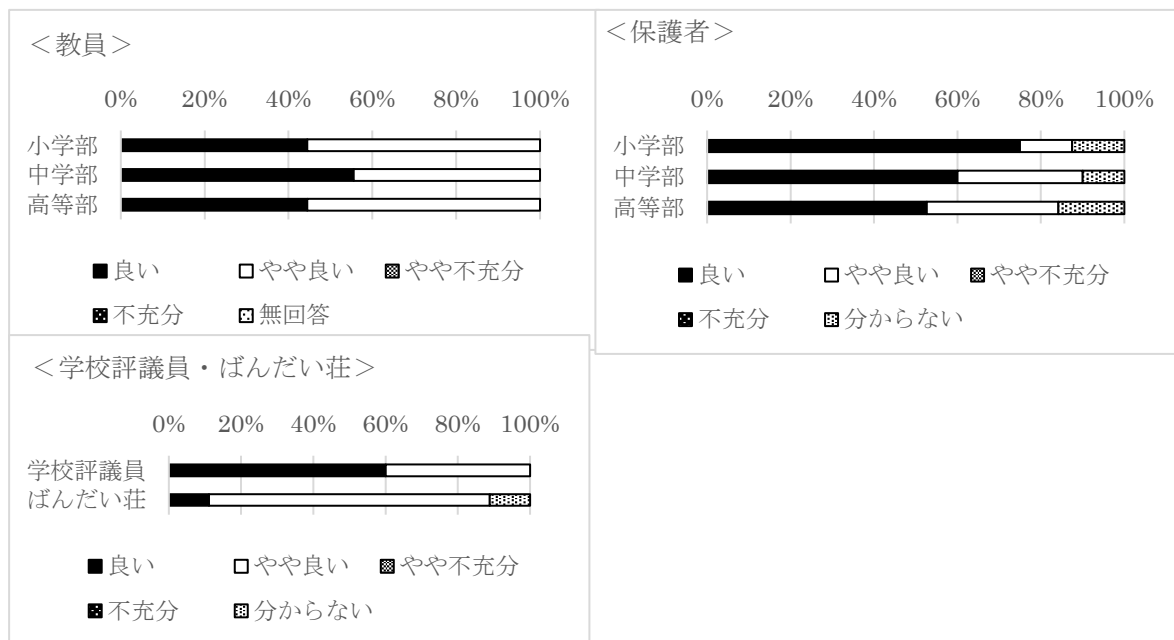
中学部・高等部教員、中学部保護者、学校評議員、ばんだい荘職員は、「良い」「やや良い」という評価であった。中学部保護者においては、「良い」の割合が100%と非常に高い評価であり、満足頂いている状況であると思われる。今年度からスクールバスの運行が開始されたことが大きな要因であると思われる。保護者の自由記述からも「スクールバスの運行が開始して、公共機関の学びができるので良かったと思います。」、学校評議員においては、「大きな問題点がなく、通学に生かされている。」という肯定的な意見が出されていた。また、新型コロナが5類扱いとなり、昨年度に比べて、どの学部においても積極的に公共交通機関や公共施設の利用がなされている。猪苗代町だけではなく、会津若松市や郡山市にも足を伸ばせる利点を生かして、今後、さらに身近な地域の物的・人的資源の活用を図り、児童生徒の経験拡充や公共のマナーやきまりの習得に改めて取り組んでいく。

(8) 関係機関との連携・進路学習や進路情報の充実



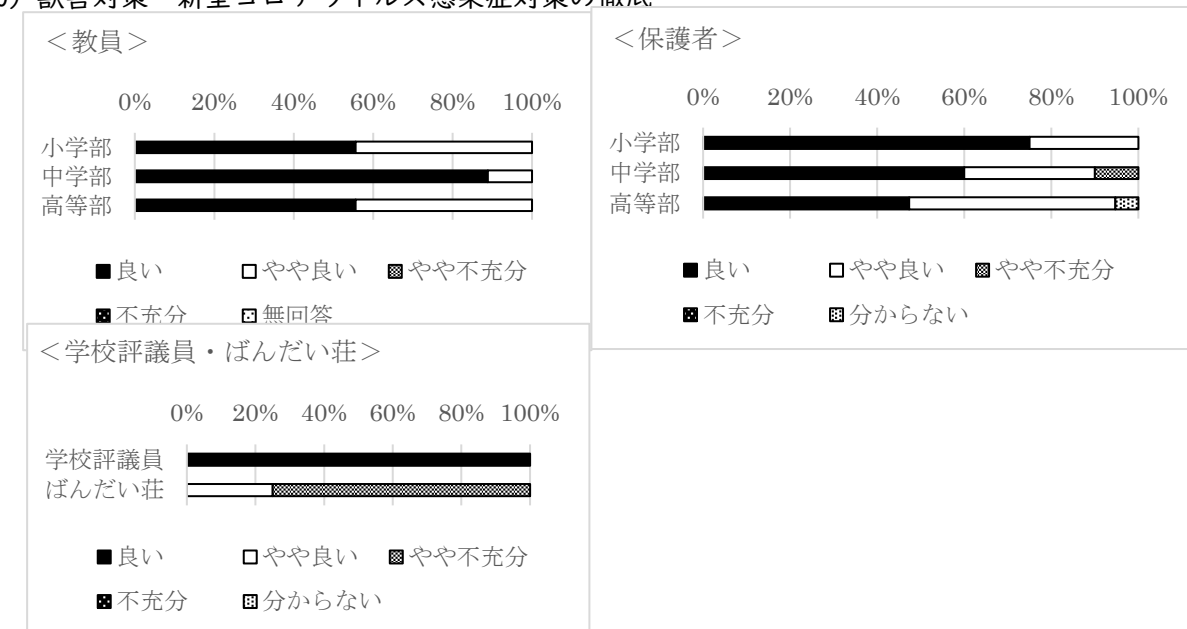
教員、中学部保護者、学校評議員、ばんだい荘職員は全て「良い」、「やや良い」という評価であったが、保護者においては、小学部と高等部保護者で「分からない」との回答があった。学校評議員から、「進路に向けて保護者と共に考えている。」という肯定的な意見をいただいた。高等部段階になって進路に目を向けるのではなく、小学部段階の小さい頃から将来に目を向け、年齢や発達段階に応じて必要なスキルを身に付けさせ、将来の自立と社会参加を目指した進路学習を進めていく必要がある。児童生徒が社会で生きる力を身に付けていくことはもちろんのこと、保護者、教員、関係機関が連携して、個々の児童生徒の進路実現に向けて、さらに邁進していきたい。

(9) 「自分手帳」の活用と発信、食習慣や運動習慣・生活習慣に関心



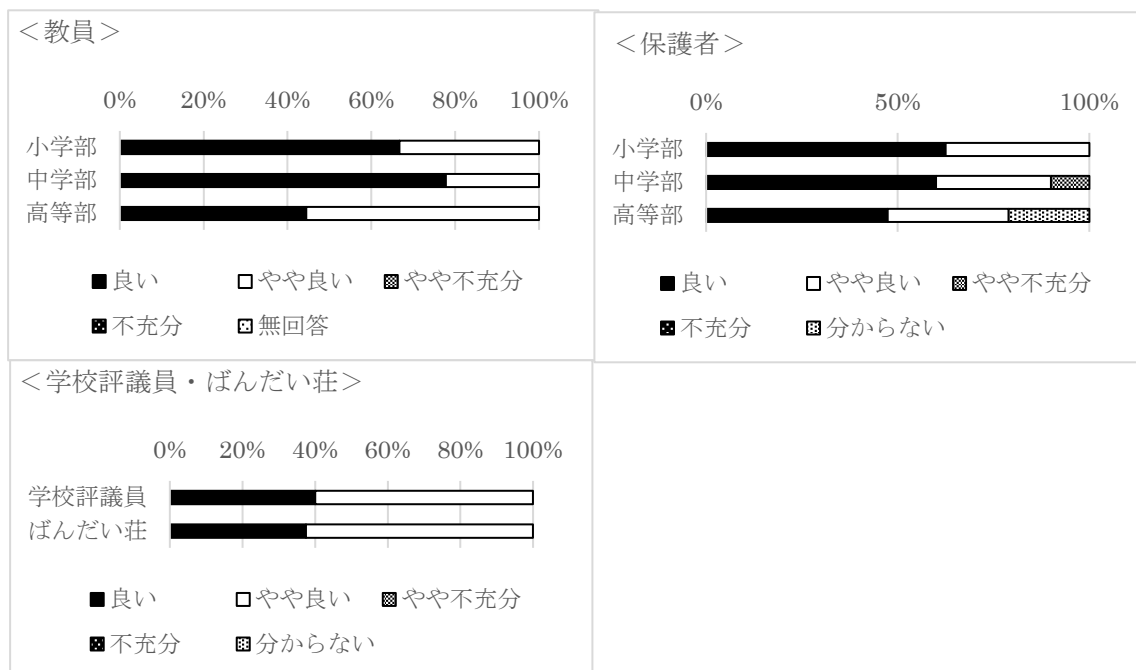
教員、学校評議員が、全て「良い」、「やや良い」と評価している。保護者、ばんだい荘職員は、ほとんどが「良い」「やや良い」の評価であったが、各学部で「分からない」との回答があった。ばんだい荘職員はほぼ「良い」「やや良い」との評価であったが、一部「分からない」との回答があった。保護者の中には、「本人がどのくらい取り組んでいるのかわかりません。取り組める力があるのか。」という意見があった。教員は、普段から活用しているため、良い評価であったが、保護者やばんだい荘職員にとっては、普段、あまり「自分手帳」に触れる機会がないため、活用状況が分からないのだと思われる。学校として、学校ホームページやお知らせ等をおして、活用状況や活動内容を周知することが必要である。

(10) 獣害対策・新型コロナウイルス感染症対策の徹底



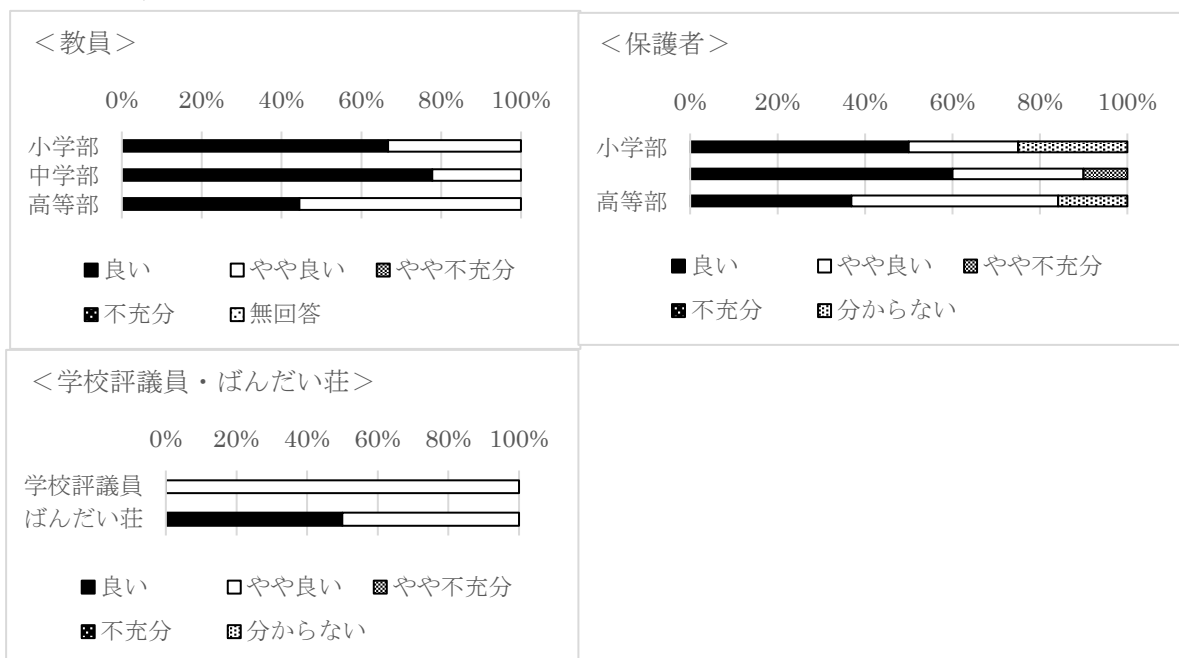
教員、小学部保護者、学校評議員は、全て「良い」「やや良い」の評価であった。中学部・高等部保護者については、一部「やや不十分」「分からない」との回答があった。**ばんだい荘職員については、「やや不十分」との回答が、70%超えであった。**「コロナ（インフル）が発症している際もマスクを着けていない先生がおり、着用は自由であるが不安に思った。」「マスク着用については義務ではないですが、感染症（インフル、コロナ等）が発症した際には、先生方のマスク着用をお願いしたい。」「冬期間は学校全体でマスクをするなど感染症対策をしてほしい。」「感染拡大防止対策としてはマスク着用が効果的であるが、個人の判断もあるため、状況に応じてマスクの着用も必要なのではと思われる。」という自由記述があり、**ばんだい荘職員は、獣害対策はさておき、感染症対策に関しては、学校の対応に不安を感じていることが分かった。**一昨年に引き続き、スクールサポートスタッフによる校内の消毒作業が毎日行われており、十分な対策はとられていると思われる。マスク着用に関しては個人の判断に委ねられるものの、感染状況や活動内容によっては、マスク着用も必要になってくるものと思われるので、検討していきたい。

(11) 生きる力を育む教科指導を大切にした授業づくり



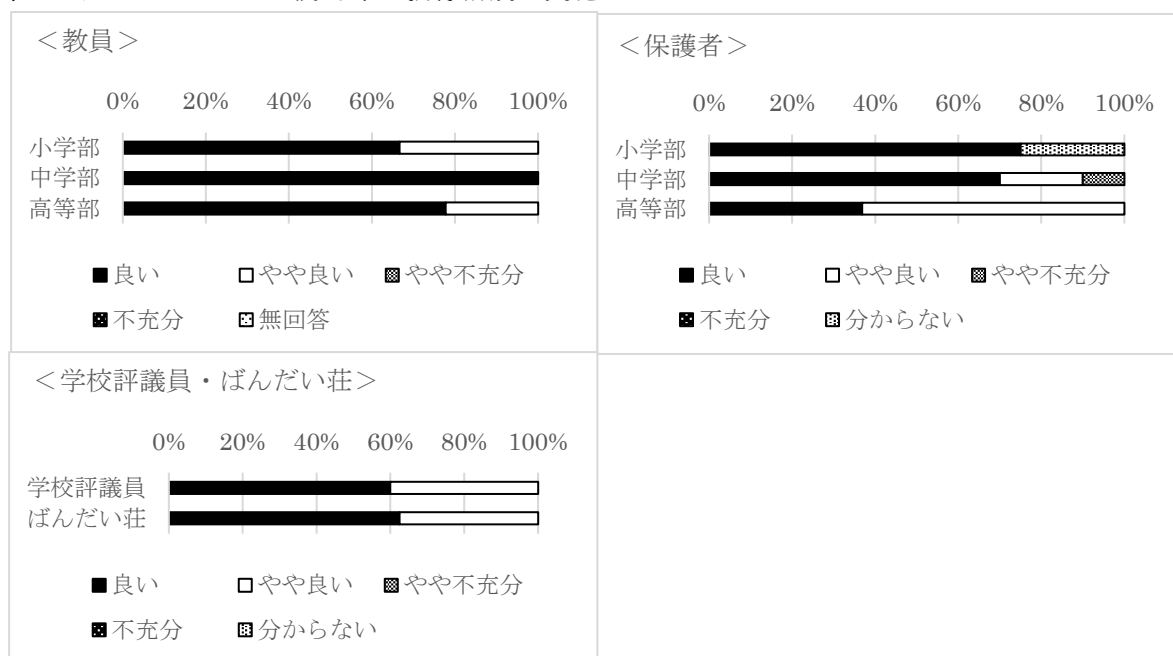
教員、小学部保護者、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」「やや良い」で回答している。保護者には「やや不十分」「分からない」と回答している方もいるが、概ね「良い」「やや良い」との回答が多かった。**生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育む教科学習を大切にした授業づくりを工夫することが概ねできていると評価する。**本校では、今年度『生きる力を育むための教科の見方・考え方を働かせる授業づくり～教材・教具や教師の働きかけ、授業展開の工夫～』をテーマに、授業研究会を行ったり講演会を実施したりと研究を行ってきた。教科ごとにグループをつくり、実際の授業の動画を観て、協議を重ね、児童生徒の学びを支えてきた。今後も全教員が意欲的に研修に励みながら、専門性の向上に努め、児童生徒が「見方・考え方」を働かせた学びの姿を見取りながら、「分かった・できた」を感じることができるよう授業づくりの工夫を重ねていきたい。

(12) 地域への啓発、地域の方々の理解



教員、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」「やや良い」の評価であった。保護者については、中学部において「やや不十分」、小学部・高等部で「分からない」との回答が見られた。教育活動後援会が設立され4年目を迎えたが、地域の方々、保護者、卒業生等より支援をいただけたことにより、サッカーゴールやスキーセット等の教材を購入したり、教育活動への援助をしていただいたりしており、教育活動が充実したと感じられたのではないかと思います。学校評議員からは、「ホームページが短期間に随時更新され、行事等の活動も分かりやすく紹介されていると思います。」という肯定的な意見があがった一方、「地域の方々に見ていただき、理解を得るには、広報活動の強化も必要かと思います。」「パソコンの発信以外での啓発が多くあると、高齢者にも発信しやすいのではないかと思います。」という意見も挙がった。教員からも「ホームページでの紹介だけでは不十分。地域への直接的な働きかけが必要。」との意見があり、今後も、地域の方々への啓発を十分に行い、理解を得ながら、「地域の学校」となっていくよう努力を重ねていきたい。

(13) はあとふるタイムや校内外の教育相談の実施



教員、高等部保護者、学校評議員、ばんだい荘職員は、全て「良い」、「やや良い」で回答している。中学部教員においては、「良い」の割合が100%と非常に高い評価であった。小学部、中学部保護者において「分からない」「やや不十分」と回答している方もいた。保護者の自由記述欄には、「はあとふるタイムに参加したのですが、授業参観日に組み入れてほしいです。」という意見があった。今年度、年2回のうち1回は授業参観日、1回は学校公開期間に実施しているが、次年度についても、保護者が参加しやすい日程を検討していきたい。地域支援センターで発行している通信「はあとふる」に関して、ばんだい荘職員から「とても読みやすく良いといつも思っています。」という意見が挙がった。保護者や地域のニーズに応じた「はあとふるタイム」や教育相談を今後も実施していきたい。

4 アンケートの記述内容からのまとめ（別紙資料参照）

- (1) 教員アンケートの記述では、本校の課題や今後の対応策について述べられている意見が多く、**次年度の取り組みに生かしていけるよう検討していきたい。**
- (2) 保護者アンケートの記述では、学校に対する感謝や満足感、スクールバス運行開始や校外学習ができるようになった喜びが述べられていた反面、改善を求める意見もあった。特に**読書活動や学部の連携については、さらに取り組んでほしいという意見が挙がった。**次年度、改善できるところは検討し、よりよい学校を目指した取り組みを実践していけるようにしていきたい。
- (3) 学校評議員アンケートでは、特性に合わせた丁寧な指導、他校との交流及び共同学習の充実等、学校の取り組みについて概ね良い評価をする意見であった。**地域への啓発や理解については、出された意見を参考に、地域と連携し、よりよい教育活動が行えるようさらに工夫していきたい。**
- (4) ばんだい荘職員アンケートでは、児童生徒が楽しく登校できるための学校の受け入れ体制に関しての感謝、一人一人に寄り添い、温かい教育を行っていることへの感謝など、肯定的な意見があった反面、感染症対策（教員のマスク着用の有無）に関しては厳しい意見が多く挙がった。

5 中学部・高等部生徒のアンケート結果

< 中学部アンケート集計結果 >

No.	質問事項	はい	いいえ	わからない
1	学校生活は楽しいですか。	11	1	0
2	元気にあいさつや返事をしていますか。	11	1	0
3	身だしなみや言葉遣いに気をつけていますか。	9	3	0
4	先生や友達に自分の思いや考えを伝えたり、困ったとき、悩んだときには先生に相談したりしていますか。	9	2	1
5	学校の友達と仲良くしていますか。	10	2	0
6	授業はわかりやすいですか。	12	0	0
7	授業でわからないことがあれば、先生に質問していますか。	10	1	1
8	学校のきまりや約束を守りながら生活していますか。	11	1	0
9	学級の係や委員会での自分の役割をしっかりと行っていますか。	11	1	0
10	自分の進路(卒業してからのこと)について、しっかりと学習していますか。	10	1	1
11	健康や安全に気をつけて生活していますか。	10	2	0
<p>○ よい学校にするための意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に気をつけて学校に来る。 ・ 生徒も先生も楽しくおもしろくするために、たくさん話をして、みんな仲良く、落ち着いて行動することです。 ・ 自分の気持ちに素直になるために意見を言い合う。 ・ 友達との距離に気をつける。 ・ 正しい言葉遣いについての勉強。 ・ 自分の進路や夢のことを考える勉強。 				

< 高等部アンケート集計結果 >

No.	質問事項	はい	いいえ	わからない
1	学校生活は楽しいですか。	20	1	1
2	元気にあいさつや返事をしていますか。	21	1	0
3	身だしなみや言葉遣いに気をつけていますか。	20	0	2
4	先生や友達に自分の思いや考えを伝えたり、困ったとき、悩んだときには先生に相談したりしていますか。	21	1	0
5	学校の友達と仲良くしていますか。	21	0	1
6	授業はわかりやすいですか。	20	0	2
7	授業でわからないことがあれば、先生に質問していますか。	20	1	1
8	学校のきまりや約束を守りながら生活していますか。	22	0	0
9	学級の係や委員会での自分の役割をしっかりと行っていますか。	21	0	1
10	自分の進路(卒業してからのこと)について、しっかりと学習していますか。	20	0	2
11	健康や安全に気をつけて生活していますか。	22	0	0
<p>○ よい学校にするための意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。(3名) ・ 友達と仲良くする。 ・ みんなと協力して、準備、片付けを一生懸命して、よい学校にすることです。 ・ 先生の話最後まで聞くこと。 ・ みんなと会話をして自分の思ったことを伝えられるようにする。 ・ 冬の体育は寒いから体を温めるのが大変。暖房が1カ所ずつしか付かない。寒くなってしまう。 				

中学部、高等部ともに「いいえ」「わからない」の回答がある項目がある。中学部生徒においては、NO.3「身だしなみや言葉遣いに気をつけていますか。」で3名が「いいえ」と回答していることから、学校生活や家庭生活において、適切な身だしなみや正しい言葉遣いを意識しながら生活していけるような指導が必要であると思われる。

また、「よい学校にするための意見」では、中学部・高等部ともに多くの意見が挙がった。積極的によい学校にしようとする意見、自分や友達的生活を振り返り、改善した方がよい点等の意見が出された。

※資料

教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員アンケート記述内容

《教員》

2<読書活動で言葉の力が育っている児童生徒>

- タブレットの日と同じように、毎週〇曜日は図書館で本を借りる日と決めてもよいのでは。(中)
- 目に見えた読書活動が分からない。(高)
- 学級で読書をする時間の設定が難しく、できていないと感じられる。国語での学習時間は、グループで取り組んでいると思いますが。(高)
- 図書室の利用はあまり見られないので、読書週間などを設けて積極的に促す必要はある。(高)

4<社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、発信できる児童生徒>

- まだまだ行動できるまでは難しい。(高)
- なかなか身に付かないため、より学部全体で手立てを共有しながら指導内容の工夫が必要。(高)

7<公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成>

- 添乗員さんにもきまりやマナーについて指導中だということをしっかり伝えることが必要。(小)

12<地域への啓発、地域の方々の理解>

- ホームページでの紹介だけでは不十分。地域への直接的な働きかけが必要。(中)

<意見欄>

- 地域の連携と併せて、公共でのマナーや安全に関する指導を推進したい。(高)
- well-beingの研修で会議の在り方について検討したが、まだまだ教材研究や児童生徒について話し合う時間は少ないと思う。もっと時間を有効に使える、上記のような各活動や外部への発信、児童生徒への指導の充実につながるのではないかと。(高)

《保護者》

2<読書活動で言葉の力が育っている児童生徒>

- 本人は読書をしていないと言っていました。(中)
- 本人が読む力がまだつたないのか、それとも周りが読むとつられて読みだすか、分かりません。(中)

3<学部活動の企画・運営に挑戦する態度の育成>

- コロナの規制がゆるくなったので、校外学習が出来るようになり良かったと思います。(中)

4<社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、自ら発信できる児童生徒>

- その子に合わせた役割を与えて自信をもたせることにより、行動に繋がっていると思います。(中)

6<ICTを活用した効果的な学び>

- 授業で用いているので効果的に使用されていると思います。(中)

7<公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成>

- スクールバス利用していて、登校時のみだけでなく、下校時にもスクールバスで下校させてほしい。(難しいかもしれませんが。)

- スクールバスの運行が開始して、公共機関の学びが出来るので良かったと思います。(小)

- スクールバスの運行が開始して、公共機関の学びが出来るので良かったと思います。(中)

9<「自分手帳」の活用と発信、食習慣や運動習慣・生活習慣に関心>

- 本人がどの位取り組んでいるのか分かりません。取り組める力があるのか？(中)

10 <獣害対策・新型コロナウイルス感染症対策の徹底>

○クマ対策、どうもありがとうございます。(中)

13 <はあとふるタイムや校内外の教育相談の充実>

●はあとふるタイムに参加したいのですが、授業参観日に組み入れてほしいです。年に2回ですし、水曜日は、私事ですが出席難しいです。

<意見欄>

●学部の連携が取れているのかとってしまう出来事がありました。学校での出来事なのに、少し保護者に対しての思いやりが足りてないような感じました。このようなことが続くと PTA 活動に対する協力も今後は考えさせて頂かないといけないとすら思っています。(中)

○スクールバスは、時間内にしたくをする、とか、外向きの顔を作るとかで、とても役に立っているような気がします。また、本人が楽しく学校に行っているのがありがたいです。そして、友達にバカって言われたとかのトラブルやその解決も経験させてくださいます、ありがとうございます。将来のことは不安になりますが、今、楽しく学校に行けているので良いと思います。(中)

○いつも細やかな指導と配慮ありがとうございます。残り少ない学校生活、充実して楽しく過ごせそうです。(高)

○通学生の保護者です。登下校時に家庭・学校での様子を伝える・聞くことが出来るので、安心して学校に預けられます。(高)

●本人の自覚の問題あり。学校側の意図に追いつけず足踏み。ご迷惑をおかけしています。(高)

<<学校評議員>>

1 <楽しく登校できる学校>

○落ち着いて授業を受けている。

2 <読書活動で言葉の力が育っている児童生徒>

○移動図書館から校内にない本への触れ合いがあって良い。

3 <学部活動の企画・運営に挑戦する態度の育成>

○一人一人の能力に合わせ対応している。

4 <社会生活に生かせる力を身に付け、自ら行動、発信できる児童生徒>

○外部との積極的な関わりがある。

6 <ICT を活用した効果的な学び>

○授業での活用が多く見られる。

7 <公共交通機関・スクールバスの利用、安全を意識した行動の育成>

○大きな問題点がなく、通学に生かされている。

8 <関係機関との連携・進路学習や進路情報の充実>

○進路に向けて保護者と共に考えている。

12 <地域への啓発、地域の方々の理解>

○短期間に随時更新され、行事等の活動の様子も分かりやすく紹介されていると思います。

●パソコンの発信以外での啓発が多くあると、高齢者にも発信しやすいのではないかと思います。

●地域の方々に見ていただき、理解を得るには、広報活動の強化も必要かと思います。

<意見欄>

○一人一人の能力に応じた授業になっているようで学年にとらわれず、丁寧な指導による成果が見られた。昨年より他校との交流が充実しているようで、スポーツ面でも刺激をもらいながら意欲的な活動になっている。

○先日もお伝えしましたが、登校を拒否されている方もほぼおらず学校生活を楽しんでいる様子が見て取れます。先生方の日頃からの手厚い御指導の賜と感謝しております。これからも個々の障がい特性に配慮していただき、成長と一緒に見守っていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

○毎回楽しそうに取り組んでいる生徒達を見て猪支は恵まれているなあと思います。色々あるのでしょうけど、それがこの先の力になると思います。ありがとうございました。

《ばんだい荘職員》

1 <楽しく登校できる学校>

○ほぼ皆さん楽しく行かれているが、たまに行き渋りをする子がいるが、先生方が協力的に受け入れてくれる。(登校時間、電話で会話など)大変、助かっている。

2 <読書活動で言葉の力が育っている児童生徒>

●本に興味をもつような姿が見られない。(日常的に)

10 <獣害対策・新型コロナウイルス感染症対策の徹底>

●感染拡大防止対策としてはマスク着用が効果的であるが、個人の判断もあるため、状況に応じてマスクの着用も必要なのではと思われる。

●冬期間は学校全体でマスクをするなど感染症対策をしてほしい。

●感染症の発生状況に応じて対策を指導して頂きたいと思います。

●コロナ(インフル)が発症している際もマスクを着けていない先生がおり、着用は自由であるが、不安に思った。

●マスク着用について義務ではないですが、感染症(インフル、コロナ等)が発症した際には、先生方のマスク着用をお願いしたい。

●コロナが5類になったのでマスクなしというだけでなく、場面により必要な防護方法を指導していただきたい。

13 <はあとふるタイムや校内外の教育相談の充実>

○はあとふるはとても読みやすくて良いといつも思っています。

<意見欄>

○一人一人に寄り添い、あたたかく教育していただいていると感じています。いつもありがとうございます。

●資料の中では確認しづらい部分が何点かありました。

ex 「獣害対策や～」について、獣害については記載されていますが、コロナウイルスの対策が記載されていない等。